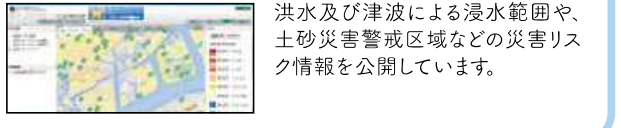


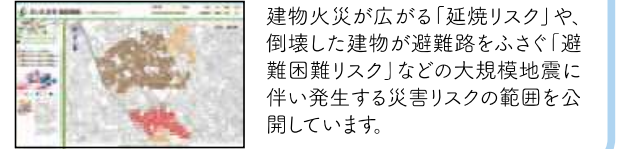
pick up
5 2F防災学習ゾーン
 防災をしっかり学べる
 「PCコーナー」

学べる POINT!
 防災情報ライブラリで映像視聴や防災について学習することができます。

備える POINT!
川崎市では
 「防災マップ」で災害に備える!

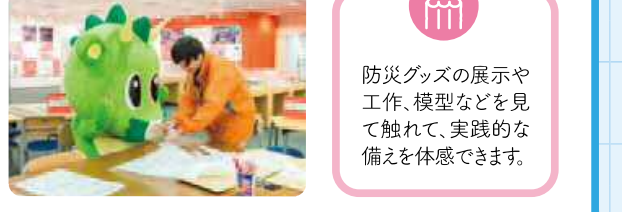


備える POINT!
さいたま市では
 「防災まちづくり情報マップ」で地震に備える!



※それぞれのマップは両市のホームページから見ることができます。

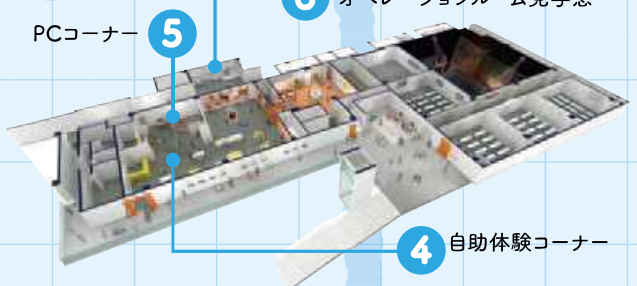
pick up
4 2F防災学習ゾーン
 もしものときに身を助ける!
 「自助体験コーナー」



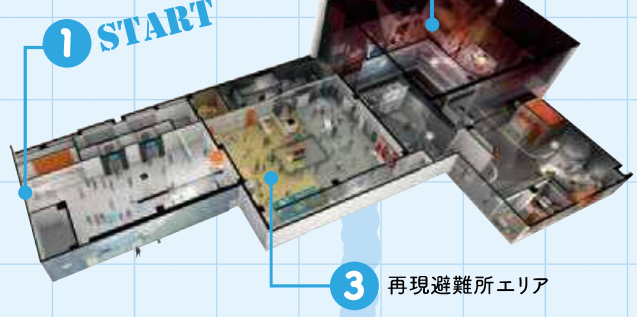
知っ得!
ゴミ袋がレインコートに(?)
 万が一のときには、意外なものも助けになることも。



2F 防災学習ゾーン



1F 防災体験ゾーン



そなエリア東京
 フロアマップ

pick up
6 2F防災学習ゾーン
 「もしも」のときの拠点になる「オペレーションルーム」って?



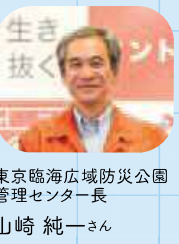
東京臨海広域防災公園は、平常時には防災の体験学習ができる施設ですが、大規模災害が起こった場合には、緊急災害現地対策本部が設置され、甚大な被害に対する応急対策活動を行う拠点となるのです。「オペレーションルーム」は、国とさいたま市や川崎市を含む9都県市などの関係機関が連携して支援に当たるための情報収集や分析に使用されます。



同じく、大規模災害発生時に「東京湾臨海部基幹的広域防災拠点」となる川崎市の東扇島東公園。人工海浜をはじめとした港湾機能を生かし、国内外から救援物資などを運び入れ、被災地へ搬送する中継地としての役割を果たします。



東扇島東公園も関係あるの?



「東京臨海広域防災公園」の施設や防災に関するお話を聞きました。まだ起きていない、未曾有の災害のために
 この施設は、2010(平成22)年7月に開園しました。当初の利用客は少なかったのですが、東日本大震災が発生し、状況は一変。現在では、団体での利用を含め、年間約25万人が来園しています。「今までに見たこともないような災害を経験し、人々の意識に変化が芽生えたのだと思います。その気持ちを忘れず、地震による家具の転倒防止対策や火事があったときの避難場所の確認など、身近なことから備えてほしいです。そして、ここで覚えたことを持ち帰り、自分の住んでいるまちに置き換えて考え、家族や友人と共有することが大切ですね。」



「東扇島東公園」を後にしたヌッと川丸くんが向かったのは、「東京臨海広域防災公園」の中にある防災体験学習施設「そなエリア東京」。施設での体験を通じて、2人が学んだ事とは。災害に備えて両市で行っている取り組みを交えながら、ヌッと川丸くんが報告します。

東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」に行ってきました!
知って備える!
防災あれこれ。

pick up
2

1F防災体験ゾーン
 地震発生後72時間を体験できる
 「再現被災市街地エリア」



学べる POINT!
 災害発生から72時間が経過すると、救出を待つ被災者の生存率が急激に低下すると言われており、適切な行動をとるためには、日ごろからの練習や備えが大切です。このコーナーでは、余震が繰り返される商店街や住宅地のジオラマを防災クイズに答えながら進むことで、自力で生き抜く知恵が学べます。

さいたま市では
 備える POINT!
 被災したまちの復興を考える
 「復興イメージトレーニング」



防災都市づくり計画で掲げる、防災の3つの視点「事前・復旧・復興」の中の「復興」のための取り組みとして、生活者の視点と行政の視点の双方から都市復興を考える復興イメージトレーニングを継続的に実施することで、災害に対する対応能力の向上や復興についてのノウハウの蓄積を図っています。

pick up
3

1F防災体験ゾーン 実際の避難所生活を垣間見る
 「再現避難所エリア」

学べる POINT!
 パネルや実物展示での避難所生活を体験することで、自助・共助の大切さが学べます。

知っ得!
非常時に役立つダイヤル「171」
 自然災害が起きたとき、自身の安全確保に続いて重要になるのが「家族や友人の安否確認」。NTT東日本では、被災地で伝言の登録や再生ができる災害用伝言ダイヤル「171」を設けています。



「171」って「いーい」ってことなの?